

平成17年度に「北海道大学大学院医学研究科・医学部医学科教職員・学生等の顕彰内規」が制定され、今年度は12回目の顕彰となりました。

この顕彰は、「特別賞」「優秀研究賞」「優秀教育賞」および「優秀論文賞」の4賞からなり、それぞれ国内外において顕著な社会貢献をされた専任教職員・同窓生、顕著な研究業績をあげた専任教職員、顕著な教育業績をあげた専任教職員、そして、特に優れた論文を発表した専任教職員・学生等に対し授与するものです。医学研究科構成員を元気づけるような活発な活動をされている方々の功績を称えることで、医学研究科を活性化し、発展へのきっかけとすべく思いが込められています。

平成28年度は、特別賞1名、優秀研究賞1名、優秀論文賞9名の被授与者に対し、笠原研究科長より各賞が授与されました。



受賞式での記念撮影

2列目左より：岩崎、篠原、吉岡、神田、鈴木、西村、渡邊
最前列左より：和田、浜田、田邊、笠原、渥美、角家（敬称略）

※平成28年度は優秀教育賞受賞者なし

●「心臓血管外科学を基盤とした外科医療・教育に関する長期的貢献」

田邊達三（たなべ たつぞう）氏 北海道大学名誉教授（医学部 第30期）



田邊達三氏は、1954（昭和29）年に北海道大学医学部医学科を卒業以来、約40年間にわたり本学部・研究科に在籍し、外科学第二講座教授、附属病院長、医学部長、同窓会長を歴任する中で、外科学の発展、病院の再開発と改築、診療科の増設、大学院組織の増設と

改組の問題などに取り組みされました。また、日本外科学会、日本心臓外科学会、日本血管外科学会など数々の学会を主宰するなど、心臓血管外科学、あるいは外科学全般の発展に尽力され、その間、後進の指導にも精力を注がれました。1993（平成5）年に本学を退官された後はNTT東日本札幌病院に病院長として勤務しつつ、地域医療振興財団などで地域医療の諸問題にも腐心し、本学はもとより北海道の医療の発展にも著しい貢献を果たされました。

同氏は、2002（平成14）年にNTT東日本札幌病院院長を73歳で退任後、今日に至るまでの15年間、昼夜兼行で執筆・講演活動を継続しており、多くの医療者や若手医師に対して外科学を初めとする医療全般の歴史をベースに高邁なメッセージを発信し続けて来られました。その原動力は、現役の心臓血管外科医として医療の変革期を体験し、その著しい進歩・発展の立役者でもあった当時から、連綿と継続されているものと思われま。その一例として、同氏の初期の著作である「人工血管」（南江堂、1977年）では、自らの人工血管開発研究の過程を詳細に述べながらも、単なる医療材料の解説にとどまらず、各時代の科学技術の進歩にも言及し、それらが医学の発展に与えた影響について多くの紙面を割いておられます。「変革の中にあっても、常に冷静に“歴史を振り返る”」行為の重要性を唱える事こそが、氏の現在の活動の原点であることがわかります。

実臨床の現場を離れた同氏は、この“歴史の振り返り”を「研究」として進化させ、さらに対象を心臓血管外科学の領域を越えた「医学史」全般へ広げられました。その過程では、おびただしい数の文献（医書）の検証は言

うまでもなく、自らの足で博物館貯蔵の資料を探索する事も厭わず、十二分なエビデンスを求めるために奔走されました。その成果は、著書「メスと手のわざの医療物語」（中西出版 2002年）や、「医学史から学ぶ 国手が祈る医の心」（北海道医療新聞社 2005年）にまとめられ、さらに、それらの集大成として「図説 医療テクノロジー発展史」（北海道医療新聞社 2012年）を上梓されました。

これらの著作に一貫しているのは、科学の進歩や医療機器・技術革新とともに目まぐるしく変化する医療の歴史の過程で、その本質であるべき「医のこころ」にも変化がもたらされる可能性への警鐘であります。特に、最新の著書である「医療テクノロジー発展史」は、紀元前の古代医療機器から最新の手術ロボットまでを網羅した壮大な医療の歴史書であります。これが単なるencyclopedia的書でないことは、その終盤に綴られた「21世紀の期待される医療の姿」に関する一文、「“理想の医療”とは今後、期待されるコンピューターテクノロジーやナノテクノロジーなどの革新的技術による“多様な医療の進歩”と、それに相対する“人間的医療”の有機的な癒合である。」で明らかであります。

田邊氏の「研究生活」は、開始から優に半世紀を越えますが、現在も尚、執筆活動あるいは講演活動などを通じて、その「研究成果」が発表され続けています。とりわけ、氏の講演が学会主催の若手医師向けセミナーにおいて大人気を博している理由は、それが単なる知識の提供にとどまらず、常にその精神性を問う強烈なメッセージを含んでいるからに他ならないと考えます。新規テクノロジーに依存した最新治療が衆目を集める一方で、医療の安全性に対する社会的不信感があらわとなった現在、社会全体に向け「求められる医療」の伝道師として活動を続ける同氏の存在はかけがえのないものであり、また、同窓として大いに誇りとするものであります。

以上のように、田邊氏の医療界全体や若手医療者育成に対する貢献は傑出しており、ここに「特別賞」をお贈りし顕彰するものです。田邊氏のご健康を祈念するとともに、永年にわたるご貢献に心から敬意を表します。